

美郷町地域包括支援センターだより 平成23年3月発行

発行:美郷町西郷区田代29番地1 西郷健康管理センター内 美郷町地域包括支援センター 0982-66-2477

認知症を学び、地域で支えよう!認知症サポーター養成講座

平成22年10月26日、JA日向女性部北郷支部により「認知症サポーター養成講座」が行われ、50名が受講しました。

「認知症を理解する」内容で、美郷町社会福祉協議会北郷事業所(キャラバン・メイト)黒木貴代さんの講義と、西郷事業所(同)遠山貴代子さんによる詩(「満月の夜、母を施設に置いて」藤川幸之助)の朗読が行なわれました。

参加者された方より「認知症に対して早い時期から専門的な研修を受けることで、実際自分が介護する立場になった時、気持ちの面でも和らぐと思えた」「介護者は大変なので、共倒れしないよう優しい言葉かけを心がけたい」などの感想がありました。



女性パワーは地域の力。仕事や家事を終えての講座です。

平成22年12月10日、西郷中学校においても、人権のための学習として「認知症サポーター養成講座」が行われ、生徒や保護者93名が受講しました。

講師であるキャラバン・メイトの奈須文明さんは、西郷中PTA会長で、JA日向福祉センター相談員です。講話の内容は、専門的な少し難しい内容もありましたが、熱心にうなずいたりメモを取ったりしながら学習しました。

*生徒の感想「認知症が学習出来て良かった」「認知症の方に会ったら、優しく声かけしたい」 *保護者の感想「いつかは自分の歩く道、お年寄りには心を込めて接したい」「今後自分の生活の中にも起こりうる事だと、深く考えさせられた」「中学生にこうした学習の場があってとてもいいと思った」



中学校の参観日に親子で認知症について学習しました

みんなで地域を支えよう。私たちも認知症の応援者、認知症サポーターです。

認知症サポーターは、「なにか」特別なことをやる人ではありません。認知症を理解した、認知症の人への「応援者」です。

認知症は誰でもなる可能性がある病気です。いつ自分や家族が、あるいは友達や知り合いが認知症になるかわかりません。ですから他人ごととして無関心でいるのではなく、「自分たちの問題である」という認識を持つことも大切です。



講義を熱心に聴く生徒たちの様子

☆認知症サポーター養成講座についてのお問い合わせは、地域包括支援センターまで!】66-2477

デイサービスでのふれあいボランティア紹介

西郷デイサービスセンターでは、毎月1回、ボランティアグループの「ぐりとぐら」(東久美代表)が歌や手遊び、本の読み聞かせ等で利用者の方々を楽しませていただいています。

ボランティアグループの「ぐりとぐら」は、主に美郷町内の学校や図書館等で活動されていますが、デイサービスでは、季節の題材を取り入れ高齢者に分かりやすい工夫もされています。時には、メンバーと一緒にかわいい天使も加わって、利用者の方々は頭をなでたり握手をしたりと、小さいけど大きな未来を持ったパワーを貰って癒されています。(実は、職員もかなり癒されています!)

「ぐりとぐら」の皆様、いつも楽しいボランティア活動をありがとうございます。



神門小学生施設訪問

2月23日に、南郷デイサービスセンターへ、神門小学校から3年生と4年生の18人の児童が訪問に来てくれました。

まずはじめに、デイサービスの利用者の方の前で、練習してきてくれた歌や音読の発表をしてくれました。

その後、利用者と一緒にけん玉など昔からの遊びをしたり、似顔絵をかいてくれました。児童達の真剣なまなざしに緊張気味の方もいらっしゃいましたが、最後は上手な似顔絵にニンマリしていました。

神門小学校の3・4年生の皆さんと先生方、楽しい時間をありがとうございました。



綾町にひな山を見に行ってきました

3月3日は女の子の節句。女性は昔より山の神とされ、『山ノ神が住むにふさわしいものをお祝いをしてあげなければ・・・』との思いから、綾町では山や川から拾ってきた巨木や古木・苔・もうそう竹・桃の木やつくし・菜の花などで山をイメージした「ひな山」を江戸時代から作ってきたそうです。

今回は、7名の介護者がスタンプラリーカードにスタンプを押しながらひな山展示会場を見学しました。各家に工夫がこらしてあり、一つとして同じものがないひな山は、目を引くものばかりでした。介護者間で昔を思い出しながら会話もはずみ、和やかな雰囲気の中、介護の疲れも癒せたようでした。

